

特別セッション「国のがん計画から学ぶ」【抜粋】  
がん政策サミット2012春

鷺見 学

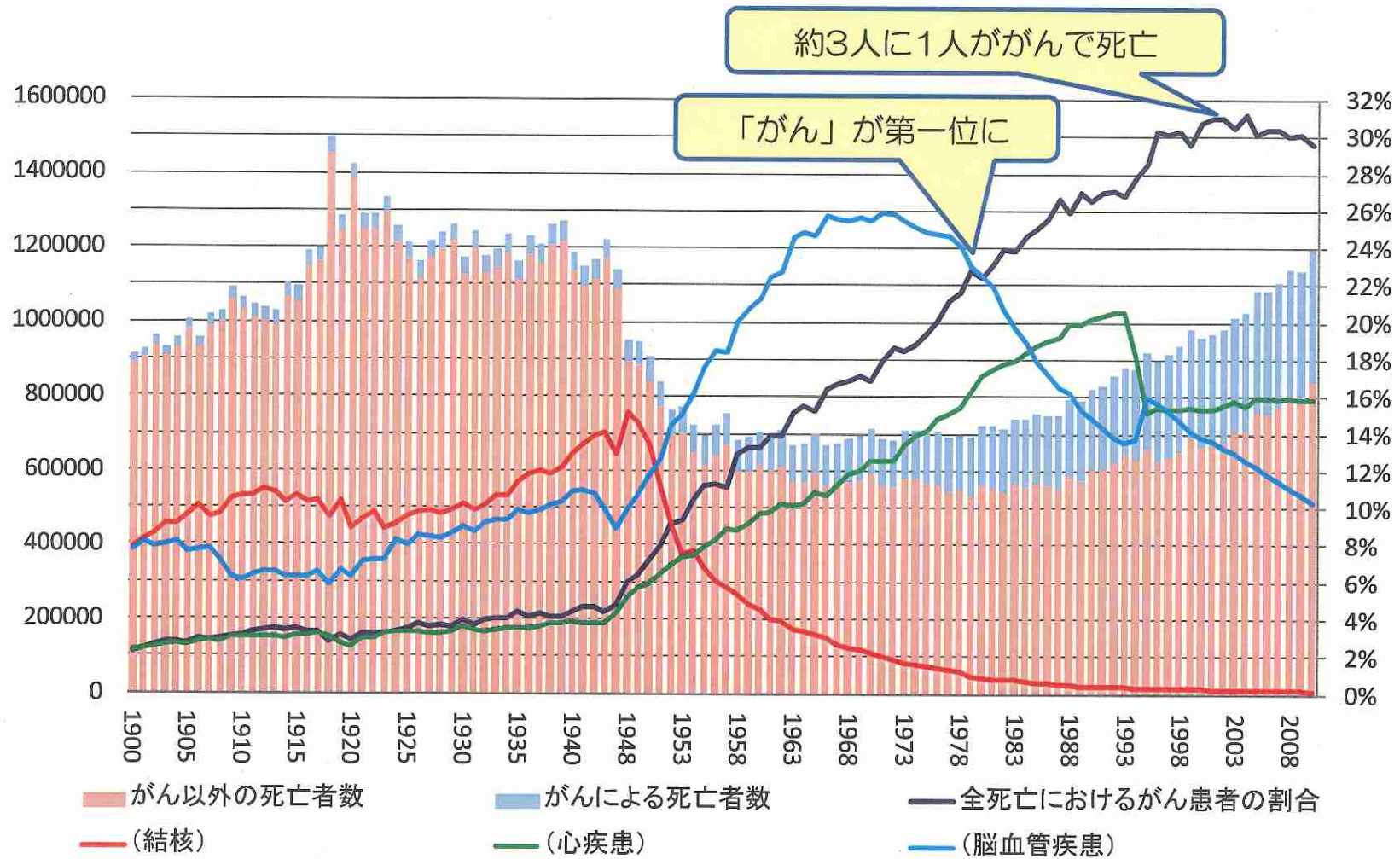
Manabu SUMI MD, MPH, PhD

厚生労働省 健康局 がん対策・健康増進課  
がん対策推進官

2012年5月12日（土）



# がん死亡者数と全死亡者に対する割合



平成22年(2010)人口動態統計(確定数)の概況より

# がんの罹患者数と死亡者数

がんの罹患者数(2006) (全国がん罹患モニタリング集計2006より)

順位	男性	順位	女性
	全部位 400,605		全部位 293,179
1	胃 79,437	1	乳房 53,783
2	大腸 62,648	2	大腸 45,167
3	肺 59,934	3	胃 37,474
4	前立腺 42,517	4	肺 25,543
5	肝臓 28,872	5	子宮頸部 16,185
6	食道 15,818	6	肝臓 14,021
7	膵臓 13,768	7	膵臓 11,722
8	膀胱 12,478	8	胆嚢・胆管 10,358
9	悪性リンパ腫 9,867	9	悪性リンパ腫 8,769
10	胆嚢・胆管 9,740	10	子宮体 8,629

乳房と子宮は上皮内がん含む

死亡者数(2010) (平成22年人口動態調査より)

順位	男性	順位	女性
	全部位 211,435		全部位 142,064
1	肺 50,395	1	大腸 20,495
2	胃 32,943	2	肺 19,418
3	大腸 24,125	3	胃 17,193
4	肝臓 21,510	4	膵 13,448
5	膵臓 14,569	5	乳房 12,455
6	前立腺 10,722	6	肝臓 11,255
7	食道 9,992	7	胆のう・胆管 9,145
8	胆のう・胆管 8,440	8	卵巣 4,654
9	悪性リンパ腫 5,716	9	悪性リンパ腫 4,506
10	腎など 4,925	10	白血病 3,218

# がん対策推進基本計画(変更案)

(平成24年3月)

## 重点的に取り組むべき課題

(1)放射線療法、化学療法、手術療法の更なる充実とこれらを専門的に行う医療従事者の育成

(2) がんと診断された時からの緩和ケアの推進

(3)がん登録の推進

**新**(4)働く世代や小児へのがん対策の充実

## 全体目標【平成19年度からの10年目標】

(2) がんによる死亡者の減少  
(75歳未満の年齢調整死亡率の20%減少)

(2) すべてのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上

**新**(3) がんになっても安心して暮らせる社会の構築

## 分野別施策及びその成果や達成度を計るための個別目標

### 1. がん医療

- ①放射線療法、化学療法、手術療法のさらなる充実とチーム医療の推進
- ②がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成
- ③がんと診断された時からの緩和ケアの推進
- ④地域の医療・介護サービス提供体制の構築
- 新**⑤医薬品・医療機器の早期開発・承認等に向けた取組
- ⑥その他(病理、リハビリテーション、希少がん)

### 2. がんに関する相談支援と情報提供

患者とその家族の悩みや不安を汲み上げ、患者とその家族にとってより活用しやすい相談支援体制を実現する。

### 3. がん登録

法的位置づけの検討も含め、効率的な予後調査体制の構築や院内がん登録を実施する医療機関数の増加を通じて、がん登録の精度を向上させる。

### 4. がんの予防

平成34年度までに、成人喫煙率を12%、未成年の喫煙率を0%、受動喫煙については、行政機関及び医療機関は0%、家庭は3%、飲食店は15%、職場は平成32年までに受動喫煙の無い職場を実現する。

### 5. がんの早期発見

がん検診の受診率を5年以内に50%(胃、肺、大腸は当面40%)を達成する。

### 6. がん研究

がん対策に資する研究をより一層推進する。2年以内に、関係省庁が連携して、がん研究の今後の方向性と、各分野の具体的な研究事項等を明示する新たな総合的がん研究戦略を策定する。

### **新** 7. 小児がん

5年以内に、小児がん拠点病院を整備し、小児がんの中核的な機関の整備を開始する。

### **新** 8. がんの教育・普及啓発

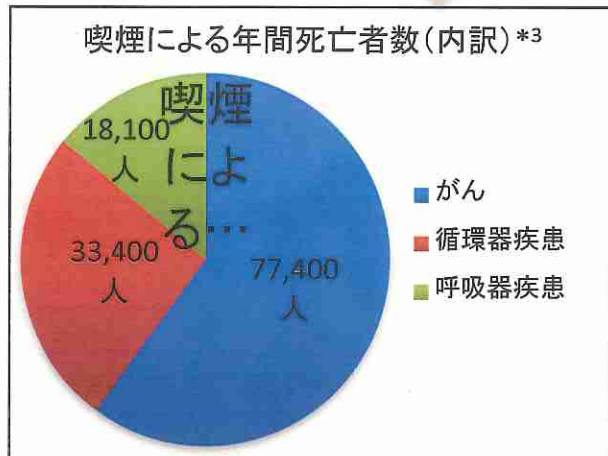
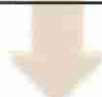
子どもに対するがん教育のあり方を検討し、健康教育の中でがん教育を推進する。

### **新** 9. がん患者の就労を含めた社会的な問題

就労に関するニーズや課題を明らかにした上で、職場における理解の促進、相談支援体制の充実を通じて、がんになっても安心して働き暮らせる社会の構築を目指す。

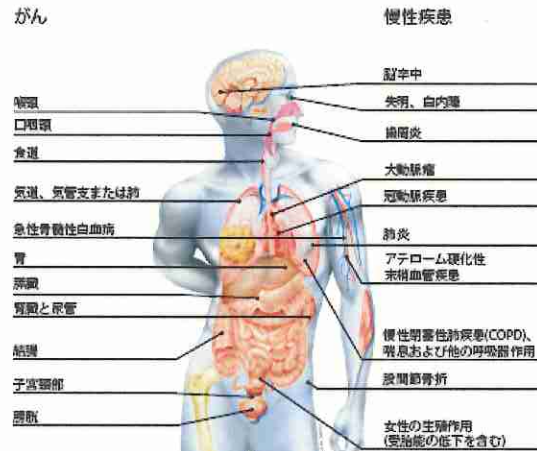
# たばこの健康影響

	喫煙による年間死亡者数	受動喫煙による年間死亡者数	出典
世界	540万人	60万人	WHO 世界のたばこの流行に関する報告書2011年版
日本	12-13万人※1~3 年間死亡者数119万人(H22)の約1割	6,800人※4 肺がん、虚血性心疾患のみ計上	※1. Katanoda K, et al.2008, ※2. Murakami Y, et al. 2011 ※3. Ikeda N, et al.2011, ※4. 片野田ら、2010



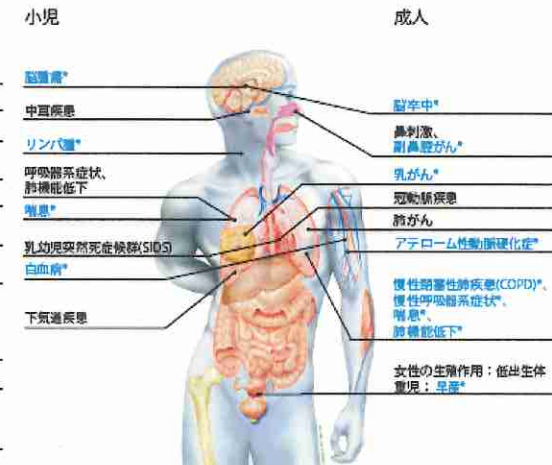
\*喫煙によるがん死亡者は年間がん死亡者35万人の4分の1

## 喫煙が引き起こす疾患

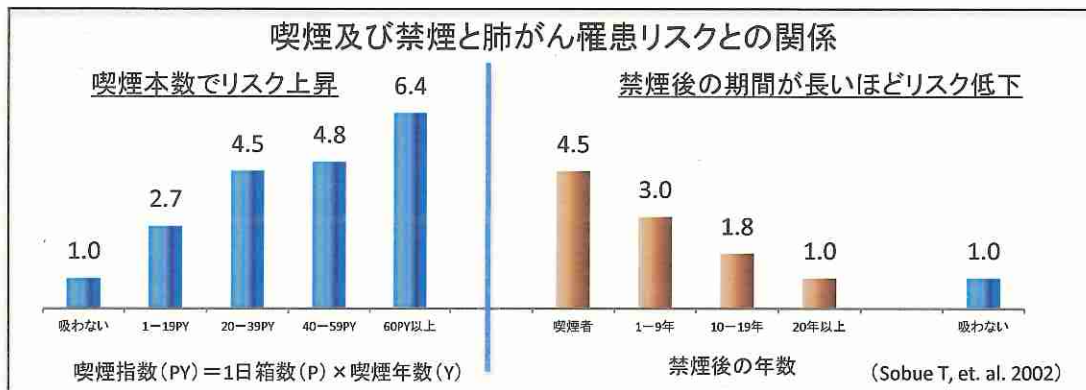


(上図: WHO 世界のたばこの流行に関する報告書2009年版 原典: 米国公衆衛生総監報告書2004, 2006)

## 受動喫煙が引き起こす疾患



\*因果関係の証拠: 示唆的  
因果関係の証拠: 確実



## たばこ消費と肺がん死亡との関係はあるが20-25年のタイムラグ



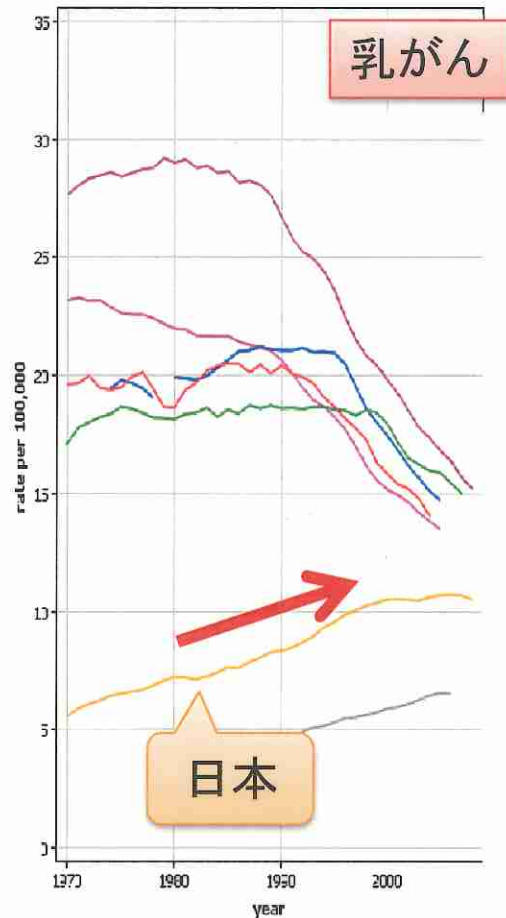
# 女性のがんの死亡率の上昇

乳がん・子宮頸がん年齢調整死亡率(20-59歳)を比較すると他の先進国が低下しているのに対し、日本は上昇している。

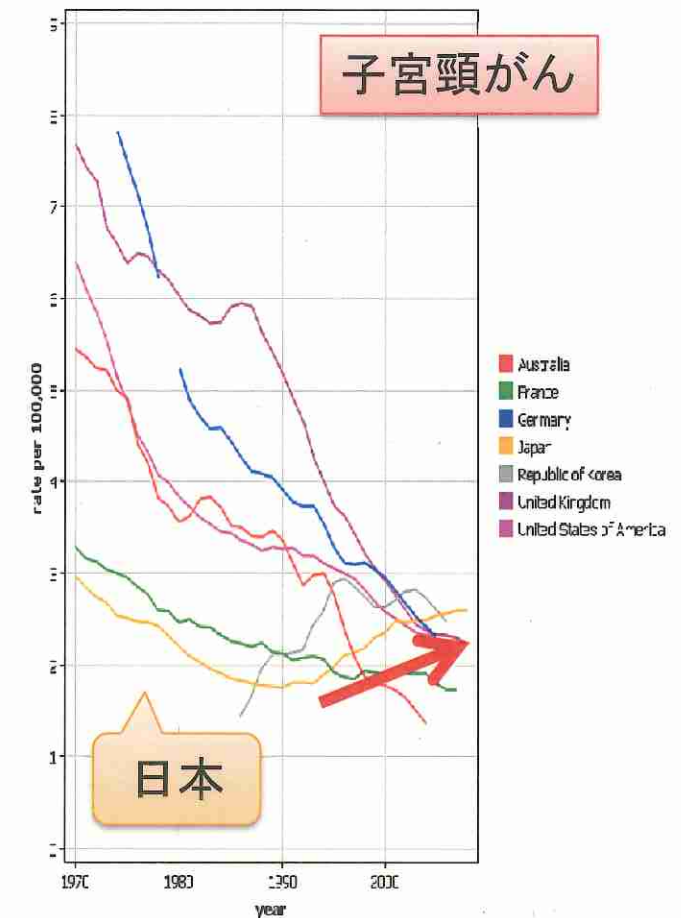
男女の年代別罹患者数  
(2006年)



Mortality from Breast Cancer  
Age-standardised rate (World), age (20-59)



Mortality from Cervix uteri Cancer  
Age-standardised rate (World), age (20-59)



出典: 国立がん研究センターがん対策情報センター

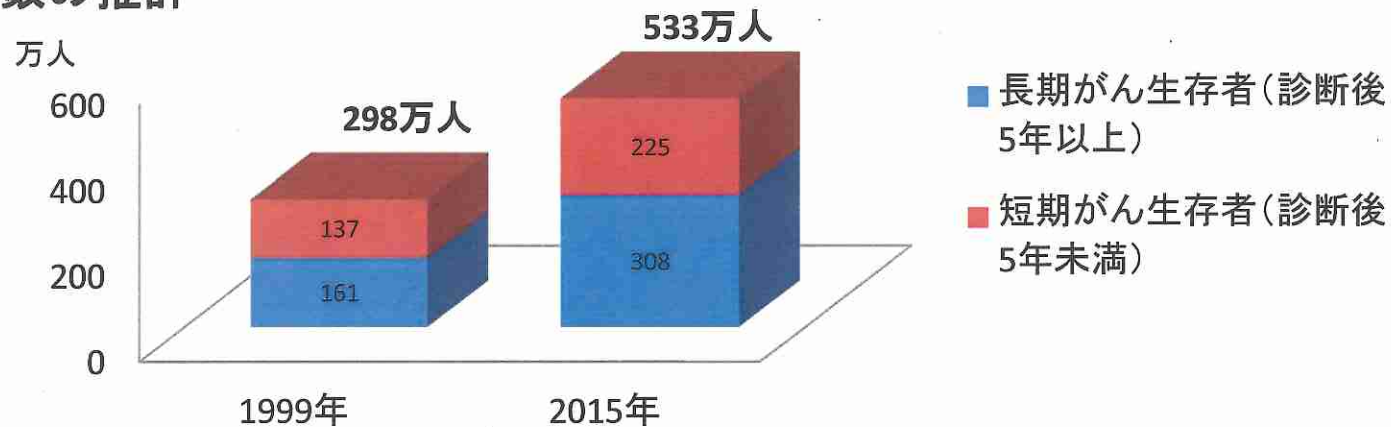
International Agency for Research on Cancer (IARC) - 17, 1, 2011

出典: WHO Mortality Database  
International Agency for Research on Cancer (IARC) - 17, 11, 2011

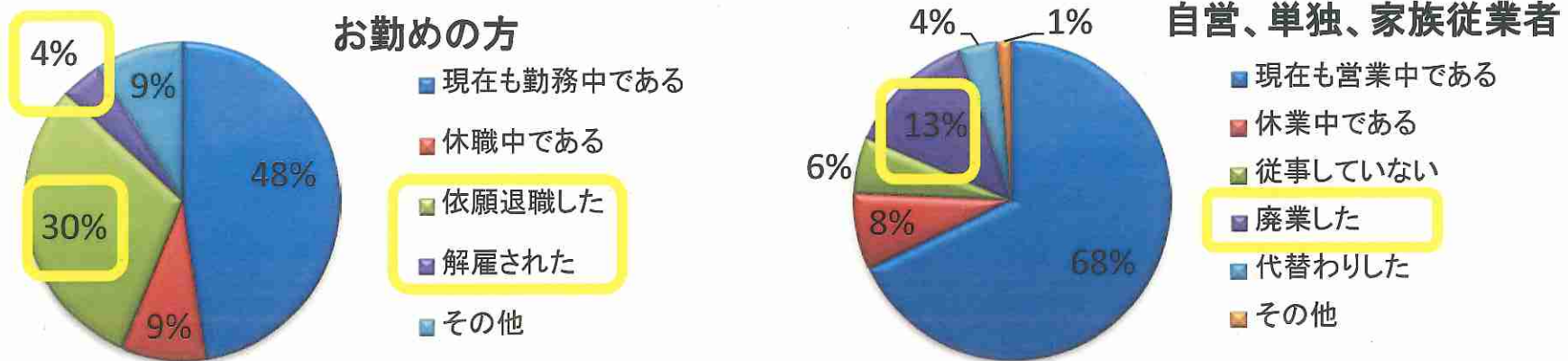
# がん患者・経験者の就労問題

- 2015年にはがん診断を受け生存している人は530万人と推計されている。(※1)
- 勤務者の34%が依願退職、解雇されている。自営業等の者の13%廃業している。(※2)

## がん生存者数の推計



## 診断時点にお勤めしていた会社や営んでいた事業等について



※1 がん研究助成金、「がん生存者の社会的適応に関する研究」(主任研究者 山口健)(平成13年)

※2 厚生労働科学研究費補助金、厚生労働省癌研究助成金「がんの社会学」に関する合同研究班 (主任研究者 山口健)(平成16年)

# 小児がんにおける現状と課題

- 小児においてがんは病死原因の第1位であるが、がん対策推進基本計画に小児がん対策はほとんど盛り込まれておらず、小児がん対策が遅れている。
- 小児がんは発生頻度が低く、さまざまな部位から発生するうえ、小児から思春期、若年成人まで発症するため、多種多様ながん種と幅広い年齢層を念頭に置いた対策が必要。また、治療による合併症に加え、成長発達期の治療による合併症(発育・発達障害、内分泌障害、臓器障害等)への対応が必要であり、成人がんとは異なる取り組みが必要。
- 現状、2000～2500人の患者が約200の施設で治療されているが、必ずしも適切な治療がなされていない。
- その他、治療に関する正確な情報提供・相談支援体制の整備、療養環境や教育体制の整備、治療後長期にわたり支援する診療・相談体制の確立、緩和ケア等が課題としてあげられる。

(「小児がん専門委員会報告書」より)

(参考) <子どもの年齢階級別死因順位(カッコは死亡率(人口10万対))>

	1-4歳	5-9歳	10-14歳
1位	先天奇形、変形及び染色体異常(3.8)	不慮の事故(2.4)	悪性新生物(1.6)
2位	不慮の事故(3.5)	悪性新生物(2)	不慮の事故(1.6)
3位	悪性新生物(2)	心疾患(0.7)	自殺(0.9)

出典:平成22年人口動態調査



# 小児がん診療体制の今後の在り方等について



\* : 初期診療においては必ず小児がん拠点病院にて診断あるいはコンサルテーションを行い、地域医療機関との連携のもとに正しい治療を提供する。フォローアップにおいては、拠点病院と地域医療機関が連携し、ガイドラインのもとに地域で可能な診療を提供する。診療情報やフォローアップデータは全て拠点病院に報告し、小児がんセンターに集積する。

# 全体目標と分野別施策との関係図

